

学校教育目標	人間尊重を基盤とし、豊かな心とたくましい体を持ち、自ら学びを創造する子どもの育成
目指す学校像	学校教育目標の具現化を目指して、教職員、子ども、保護者、地域が一体となって教育に取り組む学校
重点目標	1 デジタル学習基盤を活用した「真の学力」の育成 2 多様な学びの場の創出と誰一人取り残さない教育の推進 3 エージェンシーを育てるコミュニティ・スクールの推進 4 限られた予算の中で教職員のコスト意識を礎に安心して安心な教育環境を提供する学校づくり 5 教職員が心身ともに健康で自信と責任をもって働ける職場環境(Well-being)の整備

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) 全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査では、 ○調査対象教科の平均正答率は、全国と市の平均正答率と比べて、下回っている。 ○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均を上回っている。 (課題) ○市学習状況調査では、「読書が好きですか」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、全ての学年で市平均を下回っており、また、国語の「読むこと」にも課題が見られる。	・児童の読解力を高める指導力の向上  ・主体的・対話的で深い学びの実現	①新設の「教職員による相互授業観察」と学校課題研修を連携させた公開授業を年に2回以上行う。 ②全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、教務担当や研修主任等を中心に授業改善の進捗状況を見直す。	①年間2回の全教職員による公開授業を実施することができたか。 ②市学習状況調査において、「国語の勉強は好き」「読書は好き」の肯定的回答割合が増加したか。					
			①教育データの利活用を図るため、スクールダッシュボードで積極的なデータ収集を進める。 ②カリキュラムマネジメントマップを通して、家庭との連携を強化する。	①学びの指標「主体的」の観点の校内平均を 0.3ポイント向上したか。 ②児童アンケートで宿題実施状況の肯定的評価の割合が90%に達したか。(R7:89%)					
2	(現状) ○学校自己評価の児童評価では、「学校に行くのが楽しい」の項目に肯定的な回答をした割合は88%であり、また保護者評価では84%であった。 ○「困ったときに相談できる先生や友達がいる」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は92%であり、市学習状況調査でも概ね良好な結果である。 (課題) ○昨年度、30日以上欠席した児童の割合は約4%であった。Sola る一むボランティアの適切な支援により、利用児童の居場所として大きな役割を担っているが、引き続き、学校における過ごしやすい場所として充実させる必要がある。	・児童一人ひとりに寄り添う教育の推進  ・個別的教育支援及び相談体制の充実	①児童会を核とする児童発、児童着のいじめ防止対策、校則見直し等を実践し、保護者及び地域へ発信する。 ②学校・学年行事、学級活動を通して、一人ひとりの児童に「伸びる」チャンスを生み出す。	①学校が学年会やケース会議などチームとして機能し、効果的に児童一人ひとりを指導・支援しているか。 ②保護者評価「子どもたちの良さを伸ばす」の肯定的回答割合が維持・増加したか。(R7:85%)					
			①スクールダッシュボード「おはようメーター」を活用し、心と体の健康状態をきめ細やかな把握に努める。 ②Sola る一むを適切に運用し、SC・SSW・ボランティア・関係諸機関と連携したサポート体制を強化する。	①「おはようメーター」「心と生活のアンケート」等を効果的に活用し、早期に兆候を発見し対応しているか。 ②Sola る一む利用者にとって、居心地のよい場所であったか。					
3	(現状) 市学習状況調査では、 ○「地域の人たちは、自分を見守り、支えてくれていて」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は全学年で市平均を上回っている。 ○「この1年間に、ボランティア活動に参加したことがある」と回答した児童の割合は、全学年で市平均を下回っている。 (課題) ○学校運営協議会等において、地域のよさや強みを生かせる教育活動は何かを熟議し、SSNで理念を共有した特色ある協働活動を展開することが課題である。	・地域との協働活動の具体的な取組の構想  ・地域・保護者に向けた積極的な情報発信	①学校運営協議会で目指す児童の姿に迫る協働活動を計画し、SSNと連携した取組として実践化していく。 ②学校運営協議会において、児童と委員が直接意見交換できる場を設定し、協働活動の意義を共有する。	①熟議を通して、目指す児童の姿を学校運営協議会で共有することができたか。 ②学校・家庭・地域による協働活動について、見通しがもてたか。					
			①令和7年度にホームページ上に新設した「地域の皆様へ」という項目を適切に運用し、スクリーンを効果的に併用し積極的に情報発信していく。	①ホームページの更新頻度が適切であったか。 ②保護者評価項目「必要な情報を発信」の肯定的回答割合が維持・増加したか。(R7:94%)					
4	(現状) ○学校自己評価の保護者評価では、「学習環境を整えているか」の項目に肯定的な回答をした割合は、85%である。 (課題) ○校舎の老朽化が進む中で、教職員と児童自らの危険察知能力を向上させる必要がある。 ○限られた配当予算の中で物品等を計画的に購入し、教育活動の質を高める意識が必要である。	・安心・安全な教育環境を提供できる学校づくり  ・教職員のコストパフォーマンス意識向上	①日常的な安全点検を通して、事故発生前に危険箇所等の迅速な修繕を行う。 ②児童どうしの話し合い等を実施し、児童自らが安全で安心な学校づくりに参画させる。	①保護者評価の「学習環境を整えているか」の項目で肯定的な回答割合が維持・向上したか。(R7:85%) ②児童同士で安全・安心な学校づくりについて話し合う活動を実施することができたか。					
			①企画委員会に学校事務職員が参加し、予算執行状況等を職員に説明する。	①予算執行状況について、企画委員会等で情報共有することができたか。					
5	(現状) ○教職員の自己評価の研修項目でA評価の教職員の割合は、22%だった。 ○教職員の自己評価の働き方改革項目で、A評価は27%だった。 ○教職員一人ひとりの持ち味を發揮しながら、互いに協力し合って教育活動に取り組んでいる。 (課題) ○20代～30代前半の年齢層の教員が過半数を占めており、子育て世代の教員も少なくない。まさに、ライフワークバランスの中で、教員として必要な資質・能力を向上させるには、一人ひとりに応じた研修の充実を必要不可欠である。	・教職員一人ひとりに応じた研修の奨励  ・心身ともに健康で明るく、教員としての誇りを味わえる職場づくり	①研修受講履歴システム及び教員研修プラットフォームを活用する。 ②対話による研修受講奨励を行い、自身の資質・向上に応じた研修に取り組む。	①プラットフォームを活用して自主研修を行った教職員の割合が30%以上になったか。(新規) ②対話による研修受講奨励により、一人ひとりが必要な研修を把握することができたか。					
			①「量的働き方改革」(働きやすさ)「質的働き方改革」(働きがい)を意識した業務改善策を策定する。 ②教職員事故を防止するため、チェックポイントシートを活用した計画的な研修を行う。	①「業務量管理・健康確保措置に関する基本的な方針」に基づき、働き方改革が進められたか。 ②教職員からの相談や意見が日常的にあり、業務分担や進め方について、管理職が調整・支援を行っている様子が具体的に確認できたか。					

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組